

地図にかかる歴史年表

西 暦	内 容
BC2000～1500 年 ころ	現存最古の地図は、北イタリア「カモニカ溪谷」の集落平面図（ベトリナ地図）。
BC1550 年～1085 年ころ	エジプト ラメシド期（紀元前 1550 年～1085 年ころ）のヌビアの金鉱地図。
BC1500 年ころ	エジプト 石膏で覆った木版表面の庭園詳細平面図。
BC2300 年・1500 年ころ	文明がもたらした最初の地図として、メソポタミアの地図が知られていて、最大縮尺の地図は、紀元前 1500 年ころの粘土板に描かれたニップール地区などのメソポタミア都市平面図。中縮尺の地図は、紀元前 2300 年ころの粘土板に描かれた初期アッカドの地図として知られるメソポタミア地域地図。
BC8 世紀ころ	現存する最古の世界図（小縮尺図）は、BC700 年ころのバビロンを中心に置いた円形の世界を持つ、バビロニアの粘土板の地図。
BC6 世紀ころ	ピタゴラス学派が、地球球体説を提唱。
BC355 年ころま で	地球の周囲の長さを最初に計算したのは、クニダスのユードクス（紀元前 355 年ころ没）で、約 74,000km と見積もり、天球儀も作ったというが現存していない。
BC350 年ころ	石に彫刻したエジプト人のコスロモロジカルマップ（天文と地球の全体について世界観を表した地図）。
BC334-323 年	アレクサンドル大王（BC? -323 年没）は、北インド遠征に歩測者を使って旅行距離の推測をした。
BC195 年	科学的な測定方法が明らかで、精度も確保されている地球の周囲の長さを測定した最初は、アレクサンドリアの図書館長エラステネス（紀元前 275? ~194 年）の測定値約 46,300km である。 ほかに彼は、地球上のさまざまな距離の測定と旅行者などからの情報を収集した。
BC150 年ころ	クラテス（BC 2 世紀に活躍）は、大きな地球儀を作り、その上にほぼ対

	称的に4つの大陸を描いた。
BC130年ころ	現存する中国最古の地図は、馬王堆3号出土の輿地図。 その後、BC 299年以前のものといわれる木片の地図が発見されている。
BC110年ころ	ヒッパルコス（BC 2世紀）は、地図投影の真の創案者と考えられている。 地球の全周を360度として天文観測での経緯度測定を提案した。
BC100年ころ	エジプト人の石に彫刻した黄道帯地図。
BC27～14年	アウグスタス・カエサル（BC 27～14）の女婿アグリッパが手がけた地図は、エクメネ（可住世界）をヨーロッパ、アジア、アフリカに分けて表示した最初のものといわれ、それも教室掛地図のはしりと見られる（文献から知られるだけ）。
400年ころまで	ローマ時代には大規模な土地区画調査が行われ、フランス南部オランジュで測量したローマ時代の測量原図を彫刻した大理石の破片が現存している。
150年ころ	プトレマイオス（83?～168?）は、エラトステネスと同じアレクサンドリアの図書館長であって、彼の地理書には、カナリア諸島を通る本初子午線と経緯線を投影した世界図と8,000地点の座標表が含まれていた（150年ころ）。 地球の周囲の長さを約33,336kmとした。 プトレマイオスが実際に地図を成したかどうかは明らかではない。
310年	星図（310年）、最初の天球儀（440年）、現存する最古の手書き星図（940年）、極心平射図法の円形星図（1193年）などがこの間の中国人の成果である。
550年ころ	地球球体説を否定したコスマスの「地理書」。
590年ころ	西欧中世前期の地図成果は、ほとんど残されていない（地図暗黒時代とも言われる）。わずかに、590年ころの、西アジアを中心とするマダハ・モザイクと呼ばれる地図と「ポイティンゲル道路地図」がある。これは4世紀に由来し、12、13世紀の写本が残されている。
646年	この年、諸国の国司に国郡図の作成を命じた（『日本書紀』）。

738 年	この年、諸国に国郡の地図作成の詔を下す（『続日本紀』）。
743 年	このころ、行基（688～749 年）が街道図を作ったという？
751 年	現存する日本最古の地図は、「東大寺領懇田図」。
813-833 年	アツツバース朝第 7 代カリフ、マファムーン（位 813-833）は、経度 1 度の距離の計算を学者に命じる。113 キロとした。
1137 年	中国の世界図、中国西安碑林の禹跡図。
1155 年	現存する世界最古の印刷地図は、中国の「地理之図」である。
1100～1165 年ころ	世界地図「ロジェル王の書」作者イドリーシー（1100～1165）は、湾曲した緯線による円形の世界図を制作した。
1279 年	現存する世界最古の天球儀は、1279 年にペルシャのアルウルダイにより作成されたと推定されている。
1271～1295 年	マルコ・ポーロ、東方旅行へ。
1280 年ころ	イングランドのヘレフォード寺院に残されたヘレフォード図（マッパ・ムンデイと呼ばれ、リチャード作）は、円形の海に囲まれた世界の陸地がアジア、アフリカ、ヨーロッパに三分割されたもので、これは当時の代表的な世界図のスタイルであり（T0 図と呼ばれる。13 世紀後半）、寺院の祭壇の飾りになっていたらしい。
1300 年ころ	このころ日本の荘園図が作成される。
13 世紀	ヨーロッパ最古の国別地図、パリスのブリテン島地図。
13 世紀後半	ポルトラノ海図の起源は、はっきりしないが、13 世紀後半にポルトラニ（航路案内書、水路誌）の記述を引用して拡張したらしい。最古のポルトラノ海図（1290 年ころ）は、ピサ図と呼ばれるもの。年代のはっきりしたものは 1310 年のジェノバで作ったもの。
1305 年	現存する最古の日本全図「行基図」（仁和寺所蔵）。
1378 年	1330 年頃元の李沢民がプトレマイオスの影響を受けた「声教広被図」をあらわす。これの影響を受けた、明の「大明混一図」が作られる。

1402 年	朝鮮李朝の「混一疆理歴国都之図」が作られる。
1471 年	申叔舟「『海東諸国記』の日本図」の刊行、印刷された日本図として最古のもの。
1472 年	ヨーロッパ最古の印刷地図、アウスヴルグで印刷された聖イシドールの T-O 図。
1482 年	ヨハネス・シュニツアーの「プトレマイオス図」。
1492 年	現存する世界最古の地球儀は、ドイツのニュルンベルク博物館に保管されているマルチン・ベハイム（1459?-1506）作成のもの。
1492 年	コロンブス（1451~1506）が磁針偏差を発見。 1492 年 第 1 回航海へ、1502 年 第 4 回航海へ。
1506 年	新世界発見を描いた最初の印刷された一般図は、フィレンツェのコンタリーニと彫刻製版師ロッセリによるもので、（1506 年）大英図書館が所蔵している。コンタリーニの地図は、正規の子午線と平行圏を表示している。本図発見までは、ルイシュの地図が最古とされていた。
16 世紀ころ	この時期、急速に拡大する世界を表現するために独創的な図法が考案された。 扇型図法（正距円錐図法 1506 年）＝コンタリー（フィレンツェ） ヴァルトゼーミュラー図法（ハート型図法 1507 年）＝ヴァルトゼーミュラー 極心方位図法（極心正距方位図法 1511 年）＝マッジョリー（ジェノバ） ルイシュ図法（1507 年）＝ルイシュ（オランダ） アニエーゼ図法（1542 年）＝アニエーゼ（ベネチア）。
1507 年	南アメリカの位置に、アメリカという地名を明記した作成年次のある最初の地図は、ヴァルトゼーミュラーのプトレマイオス型印刷地図。
1533 年	視準線の交会角を測り位置を決める三角測量は、フリシウスが報告した。
1511 年	メルカトル図法による地図作成を試みたものは、ニュルンベルグのエツラウプであった（1511 年）。これは、メルカトルによる世界図以前のことであった。

1519～1522 年	マゼラン（1480?～1521 年）の世界 1 周航海。緯度経度の測定。
1525 年	ドイツの画家デューラ透視画法の幾何学的原理を著す。
1528 年	フランスのジャン・フェルネスが、地球の円周を測定。
1558 年	イタリアの自然科学者デラポルタが暗箱を紹介する。
1564 年	メルカトル（1512～1594 年）メルカトル図法によるアメリカ大陸の太平洋岸まで含んだ世界図を発刊。1569 年代表作となる世界図を発刊。
1570 年	アブラハム・オルテリウス（1527～1598 年）「世界の舞台」を編纂・刊行
1582 年	豊臣秀吉、このころから検地を開始（太閤検地 1591 年から自らを太閤と呼んだ）。
1595 年	メルカトル以前、銅版彫刻師ラフレリは、地図帳を作成し標題のページにアトラスを描いた。しかし、地図帳がアトラスと呼ばれるようになったのは、メルカトルが地図帳にこれを用いてからである（1595 年）。
1570 年	オルテリウス（1527～1598 年）が「世界の舞台」と題して、最新の地理的知識と、美麗で鮮明な印刷などで構成された世界地図帳を刊行した。
1584 年	印刷した海図で構成する真の海図帳の最初は、ワーヘナールの「航海の鏡」である。
1586～1615 年	慶長年間（1586～1615）に上梓された「拾芥抄」に収められている「行基図」は我が国で印刷された最初の地図である。
1621 年	天啓元年（1621 年）、明の茅元儀により編纂、刊行された「武備志」に海図が書き込まれる。
17 世紀ころ	ノルデン（1548～1625 年）は、各地点間距離表示（三角距離表）の先駆者であった。 オーグルビー（1600～1676 年）は、「ブリタニア（ロンドン 1675 年）」を発行し、ここでの主要郵便輸送道路に沿う主要地点間距離表示で、より革新的な業績があった。
1602 年	マテオ・リッチ、中国初の世界地図「坤輿万国全図」。

17世紀ころ	徳川幕府が、国ごとの地図作成を命じた（「慶長国絵図」1604年）。その後、1644年「正保国絵図」、1654年「慶長国絵図」、1697年「元禄国絵図」にも、国ごとの地図作成を命じた。
17世紀ころ	三角測量による距離測定法を用いて、一定の成果を上げたのはスネル（1580～1626年）である。
1615年	スネリウス（1580～1626年）が、このころ三角測量方式を開発。
1618年	池田好運、「元和航海書」。
1627年	吉田光由、数学書「塵劫記」。
1643年	このころ、樋口謙貞（小林義信）、カスパルから西洋流測量術を学ぶ。
1650年	このころ日本で、道中図が発達する。
1650年	このころ、北条氏長、ユリアンより測量術を学ぶ。
1657年	江戸幕府、北条安氏長に命じて、「江戸図」三千分の一実測図作成。
1659年	磯村吉徳、「算法闕疑抄」。
1669年	ルイ14世の命を受けフランス子午線弧長測量が始まる（1669年）。ジョヴァンニ・ドメニコ・カッシニ（1625～1711）が着手し、全土の三角測量は1745年に概ね終了し、それ以降（1747年）地形図の作成を開始し、1818年に完成した。 カッシニ四代は、この間フランスの地図作成に係わった（ジョンバニ・ドメニコ・カッシニ 1625～1712年、ジャック 1677～1756年、セザール 1714～1784年、ジャン 1748～1845年）。
1674年	関孝和、「発微算法」。
1686年	清水流測量術の祖清水貞徳、「図法三部集」。
1687年	石川流宣、浮世絵の日本地図「本朝図鑑綱目」。
17世紀ころ	イギリスのモクソン（1627～1700年）は、直径7.5センチのポケット版地球儀「懐中地球儀」を作成した（1670年代）。
1690年	渋川春海、日本人が作成した現存する最古の地球儀

1693 年	ピカール（1620～1682）とラ・イール（1640～1718 年）が、パリ天文台から基準点成果を得て、フランス海岸の最初の科学的測量図「フランス輪郭地図」を作成した（1693 年）。
1701 年	ベネチアのコロネリ（1650～1718 年）は、最初の地理学会を設立し（1684）、球儀の製作を行い、「球儀の本」という球儀の子午線帯の印刷地図帳を作成した。
17、18 世紀	17、18 世紀には、地図投影に関する研究が数多く行なわれた。 サンソン図法＝サンソン（1650 から 1700 年にかけて活躍） カシニ世界図法＝セザール・フランソワ・カッシーニ（1714～1784 年） ボンヌ図法＝ボンヌ（1727～1795 年） 投射図法＝ラ・イール（1640～1718 年） 球状図法＝ラグランジュ（1736～1813 年） 正距円錐図法＝マードック（？～1774 年）
1701 年	ハレー（1656～1742 年）の大西洋の磁針偏差を示した地図は、現存する等値線図として世界で最初のものである。
1711 年	有沢武貞、「町見便蒙抄」。
1717 年	細井広沢、「秘伝地域図法大全書」（「測量」という言葉を初めて使用した）。
1719 年	将軍吉宗、数学者建部賢弘に「享保日本図」の編集を命令。
1720 年	フランス 水路部の創設、1784 年デンマーク同、1800 年スペイン同、1795 年イギリス同。
1725 年	スイスのカプラー 山地の地図を 2 か所から（前方交会法）作る。
1727 年	福田某、富士山の高さを三角法で測量 3,895.1m。
1728 年	松宮俊仍、「分度余術」。
1729 年	世界で最初の等深線彫刻版地図は、オランダのクルクアイウス（1678～1754 年）作成のものである。
1733 年	村井昌弘、「量地指南」。

1737 年	このころ、琉球の元文検地に図根点としてハル石使用。
1735 年	フランス王立科学院は、地球の形を明らかにするため測量隊を 2 隊組織し、スウェーデン・ラップランドとペルーに派遣し、子午線弧長の計測を開始した。9 年後、横長の楕円体に近いことが明らかになった。
1751 年	平板とアリダートにより地図作成を行なう平板測量を、ディグスが報告。
1754 年	森幸安、経緯線入り地図「日本分野図」。
1759 年	フランスのランベルト 後方交会法の数学的原理を解明する。
1755~63 年ころ	ジェームス・クック（1729~1779 年）、セントローレンス川河口の測量と海図作成。
1761 年	ハリソン（1693~1776 年）は、1761 年には航海用クロノメータを発明し、英国政府から賞金を受けた（1773 年）この発明により、経度測定精度を大幅に向上させた。
1779 年	長久保赤水 経緯線入り地図「改正日本輿地路程全図」。
1783 年	イギリスの三角測量開始（1783 年）、イギリス陸地測量局設立（1791）。
1785 年	最上徳内、蝦夷地調査。
1785 年	林子平、「三国通覧輿地路程全図」。
1787~1875 年	デュフル（1787~1875 年） スイスの地図で北西からの光を仮想して立体的なケバ表現。
1791 年	陸軍の測量技術者による等高線による地図表現の試作が行なわれ（18 世紀）、地形図での広域を覆う等高線の最初は、フランス人デュパン・トリエル（1722~1805 年）によるものである。 関連して、アメリカ陸軍士官学校のウイスラーとマクニールは、レーマンのケバ表現とトリエルの等高線表現とを比較研究した（1822 年）。
1791 年	フランス学士院科学アカデミーは、地球の子午線第 1 象限弧長の 1 千万分 1 を 1 メートルと定義した。 1875 年になって、メートル法度量衡は国際条約として締結された。
1788~1877 年	ランベルト（1788~1877 年）は、各種の正積図法と横メルカトル図法を

	<p>考案した。</p> <p>関連して、ガウス（1777～1855年）は、回転楕円体から横楕円筒への正角図法での投影を提案した。</p> <p>その後、ガウスの遺稿からクリューゲルが今日の構成を完成した（1912）。</p>
1792年	司馬江漢、日本で最初の銅版印刷地図「地球両半球の図」。
1795年	ガウス、最小自乗法を発見。
1795年	高橋至時、天文方となる。
1795年	伊能忠敬、高橋至時の門人となる。
1798年	近藤重蔵、蝦夷地調査。
1799年	ドイツの地形測量技師レーマン（1765～1811年） ケバ表現を体系化。
19世紀初	<p>リッター（1798～1883年）は、灰色濃淡による高度段彩のヨーロッパ総図を作成した（1806年）。</p> <p>デュパン・トリエル（1722～1805年）は、高度段彩の手法を考案したらしく、ツォイネ（1778～1853年）が作成した世界図に使用された（1804年）。</p> <p>オーストリアのハウスラウプ（1798～1883年）とポイカー（1859～1940年）が現在普及している色別段彩の体系を開発した。</p>
1800年	伊能忠敬が、全国測量を開始。
1802年	ラムトン、インドの三角測量。
1802年	志筑忠雄、「暦象新書」。
1804年	近藤重蔵、「辺要分界図考」。
1809年	高橋景保、「日本辺界略図」。
1809年	間宮林蔵、間宮海峡の発見。
1810年	高橋景保、「新訂万国全図」。
1912年	ドイツのバウアーストフェルト 光学投影式図化機の特許取得。
1815年	イギリスのスミス（1769～1839年）、地質図を開発。

1817年	フンボルト、大西洋両岸の等温線図表地図を出版。
1818年	伊能忠敬死去。
1821年	伊能忠敬測量による「大日本沿海輿地全図」の完成。
1823年	カールツアイスがステレオプラニグラフを開発。
1824年	石黒信由、「加越能三州郡分略絵図」。
1826年	フランスのニエプスが、アスファルトを感光材料として画像を完成。
1826年	シーボルト、富士山の高さをセキスタントで測量 3,793m。
1828年	シーボルト事件。
1829年	ダゲール、Daguerreotype を発明する。
1831年	岡崎三蔵、「阿波国絵図」。
1832年	シーボルト、「日本」。
1839年	ダゲールとニエプス（フランス）、写真術の発明。
1840年	シーボルト、「日本図」刊行。
1840年ごろ	フランス科学アカデミー Daguerreotype の写真測量への利用の動き
1841年	ベッセル、楕円体を発表。
1844年	箕作省吾、「新製輿地全図」。
1852年	甲斐広永、「量地図説」を著す。
1852年	柴田収蔵、「新訂坤輿世略図」。
1855年	アメリカのモーリ（1806～1873年）は、精巧な海図作成を行なうとともに、航海海図についての着想を「海の自然地理」として要約した。ウルクス（1798～1877）は、集中的な海洋調査をして世界海図を作成した（1842年）。
1855年	フランスのナダー（Nader） ナポレオンの命を受け気球により偵察写真を撮影する。

1858年	地形図作成を目的とした最初の空中写真は、フランスのトゥルナション（1820～1910年）が撮影した。
1859年	松浦武四郎、「東西蝦夷山川地理取調図」。
1861年	フランスのロスダーが、地形測量用カメラを使用した地形図作成。「写真測量の父」と呼ばれる。
19世紀	ハレーやフンボルトに続いて、多くの科学者の手で主題図が作成される。 人口密度の段階表示、交通量図（1837年）＝ハーネス（1804～1883年） 人口のダイヤグラムと方眼の重ね合わせ（1886年）＝プレイフェア（1759～1823年） 等値線による人口密度図（1857年）＝ラブン（デンマーク 1826～1910） ドットマップ（1880年）＝モンチゾン（フランス） 単純コロプレス図（1831年）＝ダンジェヴィル ロンドンのコレラ疾病地図（1855年）＝スノー（イギリス）
19世紀	19世紀における数学者の多くが、地図投影を研究。 それまで、天文学の分野で利用されていた心射図法を地球の地図に採用（1831年）＝ライトヒャルト（1758～1831年） 正積卵形図法（正積楕円図法）＝モルワイデ（1774～1825年） アルベルス（の正積円錐）図法＝アルベルス（1773～1833年）
19世紀	スミスとフンボルトによって作成されていたブロックダイヤグラムは、アメリカのギルバート（1843～1918年）とデービス（1850～1934年）によって理想的な形で開発された。
1870年	民部省に戸籍地図掛設置。
1870年	東京・横浜間の鉄道測量開始。
1871年	工部省に測量司設置（イギリス人マックヴィン、ジョイナーなどが英国式測量を指導）。
1871年	兵部省参謀局に間諜隊諜報係を設置。
1871年	大蔵省租税寮に地理課設置（民部省地理司の業務を引継ぎ）。
1871年	兵部省海軍部に水路局を設置。

1872年	日本で最初の本格的な三角測量が開始された(工部省東京府下 1872年)。北海道開拓使が三角測量を開始(勇払・鷗川基線 1874年) 内務省地理寮が「関八州大三角測量」を開始(1874年)、つづいて那須野原で基線測量(1875年)、東京塩釜間高低測量(1876年)。
1872年	海軍省水路局(まもなく水路寮)となる。
1872年	福田半、『測量新式』。
1872年	兵部省陸軍参謀局間諜隊は、改組された陸軍省参謀局に残る。
1872年	水路局により、日本で最初の海図「陸中国釜石港之図」を作成・発行。
1873年	北海道開拓使が、アメリカ人ワッソン、デイの指導を受けて北海道で三角測量を開始。
1873年	陸軍最初の技術者として福田半出仕。
1874年	内務省に地理寮を設置(工部省と大蔵省の業務引継ぎ)。
1874年	陸軍は、フランス武官ジョルダンを招きフランス式測量指導を受ける。
1874年	地理寮、横浜、西京(京都)、大阪三角測量開始。
1874年	ダビットソンとチットマン(アメリカ)金星日面経過観測に伴い、長崎・東京間の経度差観測を行なう。
1874年	北海道開拓使が、勇払・鷗川基線を開始(日本で最初の基線測量)
1875年	内務省地理寮が関八州大三角測量、那須野原で基線測量、内務省地理寮が東京塩釜間高低測量(精密水準測量)を開始。
1876年	地理寮、外国人遊歩規程測量。
1876年	ライマン、日本で最初の本格的な地質図「日本蝦夷地質要略之図」。
1876年	内務省による高低測量(水準測量)に几号を使用することを布達。
1876年	水路寮を水路局と改称。
1877年	内務省地理寮を地理局と改称。

1877年	内務省は、全国で地籍調査を実施。
1877年	日本での最初の空中写真撮影（西南戦役に対応し、気球による）。
1877年	陸軍省参謀局、西南戦役に対応し「九州全図」などを編さん・印刷。
1878年	陸軍省参謀本部測量課長小菅智淵、「全国測量一般意見」および「全国測量速成意見」を参謀総長山県有朋へ上申。
1880年	参謀本部により、関東平野を主とした第一軍管区地域の測量図「二万分一迅速測図」の作成が開始された（～1886）。
1881年	陸軍による最初の三角測量を東京湾付近で実施。
1882年	内務省地理局、旧江戸城天守台の経緯度を測定し、各県に告示。
1882年	地質調査所の関野修蔵、神足勝記が、東日本で地磁気観測を実施。
1883年	地理局、5千分の1東京図の測量に着手。
1883年	陸地測量部、一等三角測量、一等水準測量を開始。
1883年	参謀本部測量部、「輯製二十万分一図」に着手（～1893）。
1884年	参謀本部測量局発足
1884年	参謀本部、東京中心部の測量図「五千分一東京図」の測量を終える（1887年から刊行）。
1884年	1884年の万国子午線会議によって、イギリスのグリニッジが全世界の本初子午線とすることが決められた。
1885年？	スコットランド生まれのガル（1808年から1895年）が、メルカトル図法において球に円筒を交わらせることを着想（1885年？）。
1885年	地質調査所が、「20万分の1地質図」の作成を開始した（ベースとなる地形図の作成1880年から）。
1886年	水路局を水路部と改称。
1887年	地図法制定。

1888年	参謀本部陸地測量部発足。
1888年	地質調査所が、伊能忠敬以降、最初の実測日本全図となる「1/1,600,000日本全図」を多円錐図法で作成。
1890年	陸地測量部、同施行細則を公布。
1891年	陸地測量部、東京三宅坂 参謀本部構内に日本水準原点設置。
1892年	陸地測量部、東京麻布 東京天文台に日本経緯度原点設置。
1895年	陸地測量部、「5万分の1地形図」の作成を開始。
1899年	世界初のナショナル・アトラス：「フィンランド・アトラス」。
1900年	ミシュランが、世界初の自動車用道路地図「自動車用道路地図帳」。
1907年	中村清一 写真測量を紹介。
1908年	陸地測量部、地上写真測量の実験。
1910年	陸地測量部、「2万5千分の1地形図」の作成を開始。
1911年	伊藤中尉 航空機から地上を写真撮影。
1912年	ガウスの遺稿からドイツ人クリューゲルが、横メルカトル図法の今日の構成を完成した。
1913年	陸地測量部、全国一等水準網の第1回測量を完了。
1914年	水路部が、日本で最初の航空図「横須賀至東京」を作成
1913年	陸地測量部、本土の一等三角測量完了。
1917年	陸地測量部、下志津飛行場で空中写真の撮影を実施。
1917年	ドイツが、写真測量による最初の等高線地形図作成。
1918年	日本経緯度原点の経度を改正。
1921年	第1次世界大戦の賠償品として、オートカルトグラフが陸地測量部に入る。

1924 年	陸地測量部の「5 万分の 1 地形図」が整備完了。
1929 年	水路部が、最初の海底地形図「日本近海水深図」を作成。
1937 年	国土防衛上秘密保持を要する土地建物などの地図上での偽装改描。
1946 年	米軍による 1/40,000 空中写真撮影。
1949 年	測量法公布。
1948 年	建設省 地理調査所発足。
1893 年	メイデンバウアー 写真測量 (photogrammetry) の用語を使う
1955 年	建設省道路局が、日本で最初の「自動車用道路地図」を作成。
1954 年	平面直角座標系を告示。
1956 年	経済企画庁が、「5 万分の 1 土地分類図」の作成を開始。
1956 年	林野庁が、「5 千分の 1 森林基本図」の作成を開始。
1957 年	カナダ ヘラバ 解析図化機を発明開発。
1960 年	地理調査所を国土地理院と改称。
1960 年	国土地理院が、「国土基本図（5 千分の 1、2 千 5 百分の 1）」作成を開始。
1960 年	地形図を多面体図法からユニバーサル横メルカトル図法に変更。
1961 年	地質調査所が「日本の水理地質図」シリーズの作成を開始。
1974 年	水路部が、最初の国際海図「日本西部」を作成。
1974 年	国土地理院が、「2 万 5 千分の 1 土地利用図」の作成を開始。
1974 年	水路部が、最初の国際海図「日本西部」を作成。
1977 年	国土地理院が、「ナショナル・アトラス（日本国勢地図帳）」を刊行。
1979 年	環境庁が、「5 万分の 1 現存植生図」ほか作成を開始。

1983 年	国土地理院の「2万5千分の1地形図」の全国整備が完了。
1983 年	国土地理院が、新「1万分の1地形図」の作成を開始。
1996 年	「地図と測量の科学館」の開館。
1997 年	国土地理院が「数値地図」の刊行を開始（1993年）。各種の数値地図をCD-ROMで刊行（1997年）。
1998 年	「地球地図」の整備を開始。
2001 年	測量法改正、日本測地系から世界測地系に移行。
2002 年	国土地理院、電子基準点の全国整備完了。
2003 年	国土地理院、「数値地図25000（空間データ基盤）」の全国整備が完了した（2003年）Web公開を開始。
2007 年	地理空間情報活用推進基本法の施行。

参考文献

- ・「地図と文明」ノーマン・J・W・スロワー著、表現研究所
 - ・「地図の通史」国土地理院 地図と測量の科学館
 - ・「地図の歴史（世界編）」織田武雄 講談社
 - ・「海図の世界史」宮崎正勝 新潮選書